

〈10月定例研究会の報告〉

平成29年10月28日（土）当研究所で定例研究会が行われました。

今回の研究会のテーマは文字学習です。

午後5時から研究授業、5時30分から研究協議を行いました。

研究授業者：有村美恵子（つばき教育研究所スタッフ）

対象の生徒：特別支援学校 中学2年生

テーマ：文字学習

学習内容：「拗音の単語構成」

I、指導経過

1、基礎学習（平成24年4月～平成25年7月）

はめ板の教材は好きな課題で、集中して行う様子が見られた。「同じの概念形成」の学習では、具体物と絵カードを用いて見本と同じものを選ぶ方法で行った。具体物同士、絵カード同士の組み合わせはよくできたが、具体物と絵カードの組み合わせは難しい様子がみられた。具体物と絵カードが同じであることがわかるように、様々な具体物やミニチュア等を使い、丁寧に学習を進めた。以下は終了した課題である。

- ①形の弁別（はめ板、絵カード）
- ②未測量の理解：大小、長短、高低（はめ板、絵カード）
- ③「同じの概念形成」（具体物、絵カード）
- ④空間概念の形成：順序、定位、上下、左右（具体物、絵カード）

2、文字学習（平成24年12月～）

基礎学習がほぼ終了したので、文字の学習に進んだ。文字には興味があり、簡単な字形なら同じ文字を選んだりすることができた。文字学習は単語構成板に絵カードを入れ、必要な文字カードを選び単語を構成する方法で行った。はじめは1文字で字形がわかりやすく概念のわかっている「て」から学習することにした。しかし \square の絵カードと、 \square の文字カードが同じだということが理解できず拒否をする様子がみられた。そのため具体物やミニチュア・絵カードや写真カードなど様々な物を仲間分けしながら、概念を豊かにし、ことばや文字に親しんでから構成板を用いた単語構成の学習を行うようにした。

構成する単語は、身の回りのよく知っている単語（名詞）で、字形の違いがはっきりし、列音の異なる組み合わせの単語から学習を行った。文字の数も、1文字の単語から2文字3文字と文字の数を増やしていった。名前を知らない単語や興味のない単語は、名称を覚えるのに時間がかかった。日常体験している簡単な動詞のことばは、知っているものもあったの

で、動詞のことばの単語構成も行った。現在、拗音の学習を行っている。

- ①清音の学習（平成24年12月～）1文字～5文字までの単語構成
- ②濁音・半濁音の学習（平成27年9月～）2文字～6文字までの単語構成
- ③拗音の学習（平成29年6月～）3文字～7文字以上の単語構成

3、数の学習（平成28年4月～）

文字の学習も進み、数にも興味が出てきたので数の学習も行うようにした。現在、数唱は50まで唱えることができ、数字は50まで書くことができる。数える学習は、数え板を使い行っている。「4」を「し」、「7」を「しち」と言うことで、混乱する時があるので、「^{よん}4」、「^{なな}7」と言う言い方で学習を進めている。

- ①数唱（平成28年4月～）
- ②数字（平成28年4月～）
- ③数を数える（平成29年4月～）

II、本時の学習

1、学習課題・ねらい・教材

学 習 課 題	ね ら い	教 材
(1) 文字学習 拗音の単語構成 「ちゃわん」	<ul style="list-style-type: none"> ・絵カードを見て名称を言うことができる。 ・4文字の単語構成ができる。 ・構成した単語を読むことができる。 ・構成した単語を書くことができる。 	 <ul style="list-style-type: none"> ・「ちゃわん」絵カード ・4文字の単語構成板 (3.5 cm × 3.5) ・文字 ち や わ ん (3.8 cm × 3.8 cm) ・書字の用紙
(2) 数える学習 数え板を使って 数える	<ul style="list-style-type: none"> ・タイルに指で触れながら、数詞を声に出して数えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・固定式数え板 ・タイル (2.3 cm × 2.3 cm) 

2、展開

学 習 課 題	学 習 内 容	留 意 点
(1) 挨拶	「はじめます。」と一緒に言う。	
(2) 拗音の単語	①絵カードの名称を言う。「ちゃわん」	・子どもが発声

<p>構成</p> <p>【1試行目】</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="margin-right: 10px;"> <p>① ち</p> <p>② や</p> <p>③ わ</p> <p>④ ん</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: flex; flex-direction: column; gap: 5px;"> <div style="width: 40px; height: 20px;"></div> <div style="width: 40px; height: 20px;"></div> <div style="width: 40px; height: 20px;"></div> <div style="width: 40px; height: 20px;"></div> </div> </div> <p>《構成》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文字カードを1個ずつ呈示する。 <p>《単語を読む》</p> <p>《単語を書く》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・用紙 <input type="checkbox"/> <p>1文字ずつ 4枚</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すべての画の始点のみ定位 <p>《書いた文字を読む》</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもは指導者の名称を聞いて真似て言う。 <p>②構成板のマス目を指で押さえながら発声する。</p> <p>「『ちゃ』『わ』『ん』」作ります。「『ち』『や』『わ』『ん』」入れてね。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもは指導者の模範を見た後、一緒に指で押さえながら発声する <p>③文字カードを1個ずつ呈示する。</p> <p>④構成する文字を指導者が言うのを聞きながら、一緒に言い構成する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ちの文字カードを呈示する。「ち」と言って構成板に入れる。やの文字カードを呈示する。「や」と言って構成板に入れる。わの文字カードを呈示する。「わ」と言って構成板に入れる。んの文字カードを呈示する。「ん」と言って構成板に入れる。 <p>⑤構成した単語を読む。</p> <p>課題の文字カードを取りだして読む。「ち」「や」「わ」「ん」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもは一緒に読む。 <p>構成した単語をまとまりとして読む。「ちやわん」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもは真似して読む。 <p>⑥構成した単語を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文字カードを一文字ずつ取り出ししながら見本を見ながら書く。 <p>⑦書いた文字と一緒に読む。「ち」「や」「わ」「ん」「ちやわん」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもは真似して読む。 	<p>をしない時は「一緒に言ってください。」と伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ちの文字カードを呈示した時はちやと言われないうように、子どもより半拍先に発声する。 <ul style="list-style-type: none"> ・よく見てゆっくり書くことができるように、書く前に「ゆっくり書いてね。」と伝える。
<p>(3) 数える学習</p> <p>【1試行目】 7</p> <div style="border: 1px solid black; display: flex; gap: 5px;"> <div style="width: 20px; height: 20px;"></div> <div style="width: 20px; height: 20px;"></div> <div style="width: 20px; height: 20px;"></div> <div style="width: 20px; height: 20px;"></div> <div style="width: 20px; height: 20px;"></div> <div style="width: 20px; height: 20px;"></div> <div style="width: 20px; height: 20px;"></div> </div> <p>【2試行目】 7</p>	<p>①固定式数え板にタイルを7個入れ呈示する。</p> <p>②指導者がタイルに触れながら、数詞を声に出して数える。(模範)「タイルを数えます。見ていてね。」</p> <p>いち に きん よん ご ろく なな なな なな 「1, 2, 3, 4, 5, 6, 7」「7」「7あったね。」</p> <p>「一緒に7と言うよ。」子どもと一緒に「7」と言う。</p> <p>③子どもと一緒にタイルに触れながら数える。</p> <p>1試行目と同じ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・^{よん}「4」「^{なな}7」は子どもより半拍先に発声する。

<p>(4) 拗音の単語 構成 【2試行目】 《構成》 文字カードを利き手 側から構成する順番 に呈示する。 《単語を読む》 《単語を書く》 ・用紙 4文字繋がってい る 用紙 1枚 ・すべての画の始点の み定位 《書いた文字を読む》</p>	<p>①絵カードの名称を言う。「ちゃわん」 ②構成板のマス目を指で押さえながら発声する。 ③文字カードを利き手側から構成する順番に呈示する。 ④構成する文字を指導者が言うのを聞きながら、一緒に言い構成 する。 ⑤構成した単語を読む。 ⑥構成した単語を書く。 ⑦書いた文字を一緒に読む。</p>	<p>・よく見るこ とができる 時、発声する ことができ た時、上手に書 くことができ た時、タイミ ングよく褒め て上手にでき たことを伝え る。</p>
<p>(5) 挨拶</p>	<p>「おわります。」と一緒に言う。</p>	

Ⅲ、研究協議

研究授業終了後、研究協議が行われました。特別支援学校の先生方、障害支援施設の職員の方の参加がありました。

研究協議は、(1) 授業者からの補足説明 (2) 質疑応答 (3) 「拗音の単語構成の学習」・実技指導・説明 (4) 研究授業・研究協議のまとめの順番で進められました。

(1) 授業者からの補足説明

文字学習は清音、濁音、半濁音の学習(6文字までの単語構成)が終了したので、拗音の単語構成の学習に入りました。拗音の単語は発声がしやすい「ちや」を含む文字から学習を行いました。清音から半濁音までの学習は1音1文字でしたが、拗音の学習では、「ちとや」の2文字を一緒に読む為、学習当初は少し戸惑う様子も見られました。その為、単語を読む時には(例 ちゃわんの場合)人差し指で「ち」、中指で「や」を同時に指さしをして「ちや」と発声するように行いました。これにより1音1文字との違いが明確になり拗音の理解が進みました。

(2) 質疑応答

〈参加された方からの感想〉

- ・文字学習を楽しそうに行っていた。文字を構成する、書く、読む等もとても丁寧に行っていた。「ちとや」を一緒に「ちや」と指を使って読んでいたので、拗音の学習がよく理解されていた。

ると思った。

- ・書字の時にことばかけがないと、書き方が早くなり、文字が乱れるということだったが、指導者のことばかけの速度に合わせてゆっくり書いていた。丁寧にゆっくり書く為には、ことばかけがとても大切だとわかった。
- ・利き手（左手）で鉛筆を持って書く時、反利き手（右手）は書字用紙をきちんと押さえて書くようにした方がいいと思う。反利き手で紙を抑えて書く為には、書字用紙をもう少し大きくしてもいいのではないだろうか。

〈参加された方からの質問〉

◆文字学習はどのような文字から学習をしたらいいのでしょうか？

⇒①清音、②濁音、③半濁音、④拗音、⑤長音、⑥拗長音、⑦促音の順番で学習を行います。また、1文字の単語から学習を始め、2文字3文字と文字の数を順次増やしていきます。拗音の学習を行う時には7文字、8文字位の文字数の単語構成が行えるようにします。構成する単語の品詞による学習順序は①名詞、②動詞、③形容詞の順番で行います。単語は身の回りであって良く知っているものから行い、学習が進むにつれて、知らないものの単語構成も行っていくようにします。

◆拗音の単語を書く時に留意する点を教えてください。

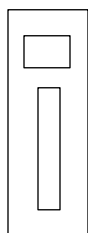
⇒拗音の学習の書字用紙は、現在十字の線が入っている書字用紙を使用しています。拗音の小さい字（例「ゃ」）を書く時、どこに書くのか明確にするためです。拗音の小さい文字を書く時には、書く場所を指さしをして教えます。書く場所を確認した後、「小さく『ゃ』と書くよ。」とことばかけをして書きます。見本と同じに書けたことを確認します。

(3) 「拗音の単語構成の学習」・実技指導

実技指導では「ちゃわん」の文字の呈示の順番についての説明がありました。

(1) も (2) も配列は同じですが、(1) の呈示は、ん、わ、ゃ、ち の順番で呈示します。(2) の呈示は、ち、ゃ、わ、ん の順番で呈示します。第1音ちから選択する為、ちの文字が後に呈示される(1)の呈示の方が簡単な呈示になります。

(1)



ん わ ゃ ち
① ② ③ ④

(2)



ん わ ゃ ち
④ ③ ② ①

(4) 研究授業・研究協議まとめ

文字学習は、文字を読んだり書いたりできるようになるだけでなく、文字で表現されている概念を理解する学習です。文字学習を通し、概念が豊かになり考える力を養っていきます。文字を学ぶことを通し、よく見る、よく考える、言葉話す、人間関係を豊かにする、という面で著しく成長します。今日のお子さんも文字学習を通し、豊かに成長している様子が見られます。文字を学ぶことはとても重要なことです。